

審議会等の会議結果報告書

【担当課】子ども課

会議の名称	第2回茅野市子ども・家庭応援会議		
開催日時	令和8年3月4日(水) 午後7時00分～午後9時00分		
開催場所	茅野市役所 8階大ホール		
出席者(名簿順)	<p>【委員出席】 市川純章委員、永嶋陽子委員、奥原貴美子委員、伊藤深雪委員、竹内ひかり委員、小澤佳奈委員、柳澤由加里委員、伊藤和巳委員、両角恭子委員、清水正志委員(代理)、竹花顕宏委員(代理)、猿谷大和委員、伊藤美奈委員、小池千恵子委員、森美奈子委員</p> <p>【市側出席】 山田教育長、五味子ども部長、井出健康福祉部長、守屋社会福祉課長、国枝健康づくり推進課長、両角子ども課長、笹岡幼児教育課長、渡辺学校教育課長、野明子ども係長、飯島子ども係子ども育成担当、樋口子ども係主任</p>		
欠席者(委員のみ)	原田正樹委員、町田徳子委員、春山晴夫委員、矢崎和広委員		
公開・非公開の別	公開	非公開	傍観者の数
			0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
子ども課長	司会進行		
副会長	1 開会		
教育長	<p>2 教育長あいさつ</p> <p>皆さんこんばんは。貴重な時間にお集まりいただき誠にありがとうございます。今日の会議事項は次第にありますように3つあります。令和7年度開催された専門委員会報告になります。私たちとすると、来年度も専門委員会が必要だと考えているわけですが、継続についてのご意見を伺えたらと思います。それから2つ目の子育て支援事業計画の修正。これは誰でも通園制度が新たに入ったということの修正になります。それから3つめは地区子ども館あり方検討委員会。平成15年から16年にかけて、10地区で図書館の分室に併設される形で地区子ども館が作られました。そしてどんぐりメイトさんには大変ご苦労いただいているところであります。ただ、コロナを通す中で40%子どもが減ってきたり、利用形態が変わってきているというような状況があります。そうした中で、地区子ども館をさらに良くしていくにはどうしたらいいのか、今後どうしていったらいいのか、或いは、将来的なあり方、そんな点について、今年度様々な聞き取りをしたりアンケートして参りましたのでその報告になります。委員の皆様を中心に、これからについてご意見出していただけたらと思います。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>—以降は市川会長が進行</p>		

<p>こども係長</p>	<p>3 会議事項 (1)審議会等の会議の公開の確認 【資料1】茅野市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき説明。</p> <p>本日の会議を公開とすること、会議録の公表を市ホームページでおこなうこと、公開する議事録の発言委員の氏名を「委員」として記載して公表してよいかを委員へ確認。</p> <p>— 承認</p>
<p>こども係長</p> <p>会長</p>	<p>(2)第4次茅野市こども・家庭応援計画 専門委員会報告 【資料2】により専門委員会について報告。</p> <p>専門委員のメンバーから一言づついただきたい。最初は、どんぐりプランの原案を見るのかどうかという議論もあったが、結局作っていく中でできていくことだろうと。専門委員でできるのはどういうふうに作っていくのがいいのかとか、何で作るのかという理念のところは、たたき台を出すのがいいだろうねということをお話してきた。あとは指標の話も出ていましたが、指標を作ると、目標にうっかりするようになってしまうので手段と目的がどっかで入れ替わるみたいなことがあったりする。指標は見えている状態だが何を見ようとしたかということも、議論しました。</p>
<p>副会長</p>	<p>参加させていただく中で、ちょっとずつ見えてくるものも出てきたのではないかなという感じです。例えば、何をとか、具体的にどんなことをとか、子どもをというようなご意見をたくさん出していただいたかなということ。それから、いずれきちんとした形になってプランができるわけですが、それを誰がどうやって活動しているのかとか、これをどうして、どうやってチェックしたほうがいいのかとか、みんなの気持ちなどの状況を重ねていこうというような意見が出て、とても楽しかったかなという気持ちがあります。</p>
<p>委員</p>	<p>専門員会を通して感想になってしまうが、感じたことを伝えたいと思う。それぞれの地域によって課題が違ってくるのかなというところを感じました。だからこそ第2回のところの報告にも上がっているように、現在子育て中の保護者や子どもたちの声といったところ、生の声がやっば必要になってくるのかなと感じました。それからもう1点、私が感じたことは、市内に住んでいるのは、日本人だけではなく、外国人、多国籍の方もいるというところを念頭に置いて、これからのどんぐりプランに向けて、考えていくべきではないかなというところをちょっと感じました。</p>
<p>委員</p>	<p>私も4回、参加させていただいて、最初のどんぐりプランが作られたときのことをお聞きして、難しいなと感じた。私自身は、時代がどんどん変化している中で、見直しというのは絶対必要になるというのは感じていました。その中でもやっぱり子育て世代の、生の声とか、子どもたちの声とか、今何が必要なのかとかを、ヒアリングするという意見を聞くということはすごく大事なことになるかなということ。前のものを見てみると、今やっているのかなということとか、重複しているものとか、何か見受けられるようなものもあるのではないかなと</p>

<p>会長</p>	<p>いうふうを感じることもありまして、今必要とする今の実態に合わせたものに変えていく時代だと思うので、このどんぐりプランでも今に合ったもの、その声を聞いてもう一度考えていくということが大事なのではないかなということ、4回を通して感じる事ができました</p> <p>今までのプランというのは場づくりだとか、コンテンツというようなやる内容がちょっと大きかったという話がありまして、もちろんフォローアップの体制もあったりしたが、それをする人たち、提供する人たちはいるのかとか、時間はあるのかとか、或いはそれに来る子どもたちは時間があるのかとかそのような他の状況も見ないといけない。結局やることをいっぱい掲げても、できなかったで終わってしまう。就労形態も変わってきているということで、事業者企業の人たちもこのプランところには関わっていかないと、多くの時間を仕事で使っているわけですから何か働き方改革とは言うが実態はどうなのかとかそういうのも見ていかなければいけない。やることだけを掲げてもできない事情が何か、その家庭環境だとか地域環境との整えを見ていかないと、実現しないというようなことが課題であったりしました。それをどうプランの中に入れていくのかというところは課題かなと。</p>
<p>こども係長</p>	<p>先ほども少しお話ししましたが、専門委員会という話し合いは初めて始めたことですので、何となく概念的な話になってしまって、こういう方がいいよねと話が出ますが、それどうやって進めるといふところになかなかちょっと深めていくことが会議としてできていなくて、これからもう少し深めていきたいと思っております。来年度も引き続き専門委員会という小さな単位の中で話し合いを行い、引き続き行っていきたいと思っております。もしご意見があるようでしたらいただければと思いますのでよろしくお願いします。</p>
<p>幼児教育課長</p>	<p>—意見等なし</p>
<p>委員</p>	<p>(3)第三期茅野市子ども・子育て支援事業計画の修正について【資料3】により、修正について説明。</p>
<p>委員</p>	<p>こども誰でも通園制度は、その子どもの立場でのものであって、保護者の都合での一時預かりとは違うということですが、参加する場合には、親も同伴することになるのでしょうか、それとも子どもだけが預けられる形になりますか。</p>
<p>幼児教育課長</p>	<p>子どもだけ預かる予定でおります。ただ、慣れていないものですから、初めのうちは親子通園も可能とはしておりますが、いずれはお子さんだけをお預かりという形をとります。</p>
<p>委員</p>	<p>その場合には、0歳から3歳の未就園児までということになるんですけど、親御さんが専門的な知識のある方たちと関わる中で、親育ちも期待ができるということですよ。そうすると、預けたら預けるだけではなくて、そこでその保育士さんたちと、話をしたりすることで、不安解消したりとかそういうことにつなげていくという目的もあるということですか。</p>
<p>幼児教育課長</p>	<p>はい、その通りです。</p>

会長	<p>保育園は条件があるから、条件のない保育園だけども時間は1ヶ月10時間みたいな、そういうことだったというふうに、この資料の図が空白を埋めるような制度であるという話であると解しています。</p>
こども係長	<p>(4)地区こども館あり方検討報告について【資料4】により、あり方検討について報告。</p>
会長	<p>このあり方を検討して、決定して実施するとしたときにその決定はどこで行われるものになりますか。</p>
こども係長	<p>ご意見を出していただくのは、各地区の運営委員会になりますが、最終的な決定は市として行っていくことになります。</p>
会長	<p>決定は行政の執行範囲であるとしたときに今度は、どういうふうにしていくかということに市民がどれだけかかわれるかがあるかというのはどのように考えていますか。今のままだと、メイトさんは関われるけど、それ以外の人に関われる様子がちょっと感じられなかったがその辺もどのような予定でいますか。</p>
こども係長	<p>利用者等にはヒアリングを行って参りましたし、一番地区こども館に関わっているのは地区こども館運営委員の皆さんです。そこには丁寧に説明を進めてきましたので、ご意見もいただいているというところです。逆に言えばその地区こども館を利用しない人たちからご意見をいただくということは、どこの公共施設もそうだと思いますが、難しいところだと思います</p>
会長	<p>プロセスの話で利用していない人は、知らなかったという機会損失があったのか。利用したくてもできない何かあったのかとか、その使ってる人は使える人が使っているということでは使える人の意見だけで決めるというのもという考え方もあったりするもので、聞けていない意見とは何だろうかということも、考えた上で決まると納得感がでると思う。どんぐりプランの策定と同じで、策定に関わった人は決めていくだけではなく、委員は策定に関わり、プロセスに関わるとすると、どうやってその意見を聞いていこうかということも言っているのかなみたいな感じもあるので、そこを拡大していくような余地があるのかということになります。</p>
会長	<p>追加で5番のところで、今日はどんぐりプランの推進に関わる意見交換ということで、専門委員会の中でも出たように、世の中の変化というのを、やっぱり意見交換した方がいいのかなというところで、僕自身が特にここに着目したらいいかなと思っているのが、負担の変化とか、機会を損失している人達がいるのではないかという話が出たらいいかなと思います。把握しているところで、1つは、家庭応援計画、こどもプランに関わることとしては、今進行しつつある中学校の部活の地域展開です。ここの会議では話題にはなっていませんが、春先に質問しました。この間の説明によると、協議会がつくられて方針が決まって来年度から動き出すということになってます。もうすでに一部の中学校では、社会体育という形で部活とは違ったものが並立して動いているということがあります。その中で感じたのは子どもが一旦学校から帰ってくる。そのあともう1</p>

	<p>回自分の中学校に行くという、それが6時半から始まる。8時までとか7時から始まって9時までという分、部活ではないが部活として拡張されている社会体育のところはそうなっている。そこには、親の送迎をするということが増えてきたりするとこれはその地域展開することによって、家庭の時間負担というのは増えてくるんだろうと思う。9時までやって帰ってくると、9時半10時ぐらいになりそうな感じがするが、そういった子ども側の時間の負担というのも起きているのではないかなと。あとは金銭的な負担というのも増えていると聞きます。そうすると、その負担が増加したことによって、部活を諦めた人たちが出ているのではないかなと。このような状況の変化というのも、施策として打った以上はきちんとチェックしていつて是正をする必要があるのではないかなということ、協議会というのがどこまでそういったことを想定していたのか。その後、どんなふうにもそこをチェックしながら、是正をしていくのかということ聞いてみようかなと思います。その負担の増加というのはどのぐらい見込まれての決定になってますか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>連続したような活動はやめましょうということで、長野県下一律で行っている。今現状そのようにしているということ自体が、本来はないはず。その負担に対するチェックというのは、今回作られている協議会は、あくまでも茅野市が部活を地域展開するときの基本方針ということで、例えば市の役割や、指導をする者の役割です。団体を運営する子どもたちの役割であったり、その中で市ができることはどういうことだろう。指導者としてできることはどうだろうというような役割も持たせている内容になっています。その中で、もちろん過度な子どもたちの体に対する負担であるとか、送迎だとか、それから活動するときの会費等々、それが各家庭に負担がかからないようにというような方針だけは、考えさせていただいております。ですからこの協議会自体は、基本方針を策定するための協議会ですので、活動自体をチェックしていくような協議会、そういう体制ではありません。</p>
<p>会長</p>	<p>わかりました。なので、民間の習い事教室を選んでいく場合には、別にそれは個人の自由ですが、学校側と市が協力して作ったとなるとそれがちゃんと機能しているか。そういうのはやっぱり継続的に見ていくということが必要なのかなと思った話題提供みたいなどころです。それによって諦めてしまっている子がいたとしたらその子たちにどういう機会提供っていうのが考えられるのかとか。今は本章を決めたのであって運用のチェックしている。規制はないということなのでそこは注意していかなければいけないのかなというのが、話題になっていて何をしたいかというように近くに反映していくようなことができればいいかな、そのような意味合いになります。今みたいに多くなってもいいので皆さんが見えるところから、家庭とか子どもたちの負担とか何か状況が変化しているのではないかなと思われることとかそういったことを皆さんの活動或いは、日常から見えてくるところを、この場で話題共有するということが1ついいかなと思っていますので、何か皆さんのお気づきのところがあれば一言ずつ気づく範囲でよろしく願いいたします。また前回の順に、どんぐりプランの推進を図るということで、皆さん方からこれは共有した方がいいような、情報というのもしましたらあわせてお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>茅野市子ども会育成連絡協議会から 私も子どもが中学1年生でいるんですけども、卓球に入っておりまして地域</p>

こども係長	利用する方の制限っていうのは特にありません。地域の方に使っていただく場所という形になります
委員	それはどういう形で使っても大丈夫ということなんですね。そうすると、これからそういう運営協議会みたいなものが行われたときに、そういったことも議論として出してみるというのも地区のあり方としてはあるということですか。
こども係長	その通りです。
会長	子どもを主人公にした遊び場というか、屋根のある公園ということでそこにいろんな人たちが関わるという想定ではあったが、そういうふうにならなくなってしまったり解釈されていることがあるということですよ。
委員	<p>諏訪人権擁護委員協議会茅野市地区部会から</p> <p>今の中学校の部活のことに関しては、なかなかやっぱり関心を持っていてなくて申し訳ないですが、先生方の負担を減らすということから、地域移行というのができているかと思いますが、今のお話を聞いても、家庭の方で大分負担がいくのかなと思いますし、指導者をどう確保していくのかなと思っています。今日の会議の中で話がありました専門委員会の報告も永嶋さんがおっしゃっていた話を聞くと、なんかワクワク感を持ってやっていらっやっったのかなということを思いまして、ぜひ話を進めていただければいいなというふうに、私も期待をしたところでもあります。それからこども館のことについても、実際にどんなふうになっているかよく存じ上げなくて申し訳ないですが、やはりいろいろ社会変わっているということもあって、3ページにありましたような、今後のあり方のところになるように、ぜひこういうふうに、なぜ地域に必要なのか、またこども館が解決できる課題は何かという、ここに書いてありますけれども、この部分を大切に検討していただきたいなと思ったところでもあります。どちらにしても、これから話し合いが進んでいいものが出ていくのではないかなと。また自分の立場からのお話を1つだけして終わりにしたいと思いますが、人権擁護委員というのは人権啓発活動とか、相談というような業務がありますが、最近感じるのはですね、子どもたちからの相談というのを受け取ります。このようなSOSミニレターというのが、全小学生中学生に配布をしている。子どもたちからの相談も受け取りますが、大人からの相談も受け取ります。茅野市のということでは全くありませんけれども、いろいろ関わっている大人からの相談を聞いていて最近ちょっと思うのが、その方々の背景に子どもの頃の虐待がかなり深くかかわっているのかなというのを感じます。私もこの立場になって改めて実感しているところでもあります。このどんぐりプランが、いろんな人が関わってこういったことが進められるということがあるわけですから、そのところに期待をしているところでもあります。</p>
委員	<p>茅野市スポーツ協会から</p> <p>中学の部活の地域展開ということで、スポーツ協会の方ではこしばらく話題に上ることがあった。多い話題だったんですけど、今回地域クラブ登録ということで、各スポーツの団体が受け皿になるようにというような形で動きをとって、バレーであったり、軟式野球であったり、サッカーであったり、地域クラブの申請をしているところはすでに申請が終わっているところもある。そういう地域</p>

	<p>のクラブが徐々に受け皿になり得るんだというのがわかってきました。やはりその点、指導者は指導者の確保の問題であったりとか、その指導者に来てもらうにあたっては月謝をいただくということがどうしても発生したりするので、金銭的に負担が増えたりとか、保護者の人が必ず送迎してもらうというような条件がついたりということになってくると、仕事を持っているお父さんお母さんの負担はやっぱり増えるなどは思うんですけど、ただ、子どもたちがそのスポーツをやりたいという機会がなくなってしまう。そういう状況や条件が許せないということで、なくなってしまうと、かわいそうだなと感じています。ちょっと地域展開の話とは違いますが、市の施設である陸上競技場の更新する予算がつかなかったということで、今年11月30日までで、茅野市陸上競技場は、公認記録というのがつかなくなってしまう。そこで出た記憶は上位の大会にはいけないというようなことになってしまうので、公認の取れる競技場、伊那とか松本に行くような対応になる。諏訪地域では、公認のつく陸上競技場はもうなくなってしまうので、よそに行くとかよその会場に行って大会を開催するとか、そういう状況になってきてしまう。今日の機会に、ちょっと皆さんと共有できればと思って、陸上をやりたい子のことを考えるとやっぱり厳しい状況になってきてます。</p>
<p>委員</p>	<p>茅野市PTA連合会から 私の子どもは6年生で4月から中学生になります。部活ですが、違う中学校にのサッカー友達に、部活がなかったのでクラブチームの方に行く聞いていて、今進んでいるので中学の部活というのは考えてなかったんですが、中学校の説明会があったときに、校長先生の方から部活について、今年はあるけど来年は途中で土日がなくなったりとか、いろんな説明を受けて、私の友達というからお母さんたちが、これから子どもたちが部活を3年間続けることができないならどこに行ったらいいのか。なんていうことを、今すごく悩んでいるっていうのを聞きました。</p>
<p>委員</p>	<p>茅野市食生活改善推進協議会 私も子育ては終わっているんですけど、こども館というのは学校の近くにはあるんですけど。学校から家に帰る途中にある子どもは寄れるんだけど、反対側に帰る子どもたちが家へ帰ったら、わざわざそこまで遊びに行くという事はしないと思う。それから、さっきの誰でも保育についても泉野は、私にすればすごく遠いところで結局そういうのがあって送り迎えに30分も40分もかかるんだしたら、そんな大変なことをするより家に置いとこうとか、送迎とかを少し考えていろんなことが決めていただけるような行政、そういうシステムになればいいかなというのをちょっと思いました。これから、茅野市に住んでいる子どもたち、それから親がこれからはずっと茅野市にいたいと思えるような子どもたちのためになることができればいいかなと思います</p>
<p>会長</p>	<p>今の部分で、どこでも誰でも通園すると、今みたいなことを聞いて、見直していくというか何か予定というのが入っていますか。ここで設置して終了ですか。</p>
<p>幼児教育課長</p>	<p>まだ、ニーズがわからないものですから、まず、今後始めていく中で利用者のニーズもお聞きし、また現場の保育士の声も聞きながら、拡充等も考えていきたいと思っております。</p>

<p>委員</p>	<p>読書の森 読りーむinちのから</p> <p>今日のご説明の中で、どんぐりプランのやさしい版ですね。子どもたちの意見を聞くというような言葉が出てきましたけれども、中学生、小学生が主体になって企画できるような、やさしい版を是非作っていただきたい。茅野市小中学生は、自主的にいろいろ企画したりできるお子さんが多いのではないかなと思う。読書のつども、小中学生が自分で手を挙げて当日の運営を全部やっている素晴らしい会がありました。見ていると、今の小学生、中学生ってすごいなと私感心しました。ぜひこれやさしい版には、そういった小学生、中学生への意見も取り入れて欲しいし、或いは子どもの権利条約。茅野の子どもたちは、どういふふうに話をするのかな。先ほどの人権擁護委員の伊藤さんがお話ししたけど、やはりそういったことをね、きちんと子どもたちと話し合える説明できるような環境。やっぱりそれが私は必要だと思います。あと、こども誰でも通園制度ですが、本当に子どもたちは赤ちゃんの頃を親から、どういう育て方をされたかによって、その子の人生ってすごく変わると思うんですよ。そういう意味で、週1回、お母さんも子育てのお稽古ができるように最初は親御さんと一緒。その分ほどお子さんだけというお話ありましたけれども、ぜひ親子、保育士、その専門家がね、意見を聞ける時間、そういうのを大切にさせていただけたらと思います。月10時間ですから時間は十分に取れると思いますので、そのあたりのところを私は考えていただきたいなと思いました。あと、こども館ですが、私玉川こども館の幹事です。玉川はこども館運営委員幹事会でこども館の年間の行事を決めています。月1回土曜日に、おはなし会、つくってあそぼうと一緒にやっているが、その担当を玉川地区の保育園と、小学校の保護者の方が担当しているんです。だから必ずその担当の人は、月1回の利用があるし、子どもたちも一緒に来たり、また他の子どもたちも、毎回、人数はいろいろですけども、1月、2月末の冬の遊びの、凧揚げは本当に感動です。自分たちで作った凧を田んぼのあぜであげるといふ。毎年やっているが、このリピータープラス初めての子どもたち、大人も子どもも一緒になって、昔の遊びを楽しんでいるんですけど、そういったところは絶対なくしてはいけない。私も普段、このこども館で打ち合わせをしたりするので、使っています。なぜかという、大人も使えるところだと。あともう1つは、本館、分室の機能としては、これは私の方からですか。本館がもう少し、10館の分室を丁寧に見る必要があると思う。とにかく分室の本が古い。分室像のあり方を考えるときには、そのことも重要になると思うので、ぜひ連動していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>茅野市教育委員会から</p> <p>私が最近感じるのは子どもだけではなく、大人も全て学ばなければならないということです。社会が大きく変化しているの、今までの常識が通らないということが多いと思います。なので、ちょっと頭をやわらかくして物の見方を変えていかなければいけないなど、いろんな会議とか研修を聞いて毎回思っています。そして、地区こども館についてですが、10地区が行政一律にこうしなさいではなくて、地区のメイトさんなりや、その地区に関わっている皆さんが考えてこの地区はこうしようというふうな方向でいって全然良いと思う。あとは、どんぐりプランですけども、関わる人が増えることで、どんぐりプランを自分事として考える人が増えるというのがあったんですけども、本当にそうだなと思って、何かどんぐりプランを作っても、結局利用する人たちは、何これというのがまだまだ多いと思うんです。なので、本当にいろんな方からの意見を取り入れて、自分ごととして考えられるようなものになっていければすばらしいのかな</p>

委員(代理)	<p>と思いました。</p> <p>茅野警察署から</p> <p>お話を聞いて警察の視点からですね、子どもの非行等を防止するためにはやはり良い環境が必要であると思われます。そのような良い環境を作るためにですね、今回のような、会議を開いて市民から意見を送りつつ、その必要性を考えています。このような積極的な計画は素晴らしいものだと思います。また、部活の話が出たと思いますが、少年の中には部活がなくなって目標を見失ってしまって、非行に走るものも実際にあります。ですので、子どもが夢中になれるようなものを見つけてあげるような、地域、行政が支援して良い関係を作っていくことが今後必要なのかなと思っています。</p>
委員(代理)	<p>長野県子ども・若者育成支援推進本部諏訪地方部から</p> <p>よろしくお願ひします。一応県といたしましては部活動の移行につきましては県教育委員会が主体となりました関係機関とともにですね、令和8年度末にはまず休日の地域移行を完了させるということを基本目標として取り組んでいるところです。地域振興局ですらかなかなか中学校の部活というところにはなかなか関りはないのですが、昨年の12月に諏訪地域の中学校バスケットボールチームが全国大会に出場するというので表敬訪問に見えられまして、そのときちょっとその中学生の子どもたちとお話させていただいたんですが、基本的に諏訪地域なんですけどババスケットボールのチームが組めないくらい子どもがいないという話で、そのメンバーを聞くと結構下伊那の松川町の方から来てたりだとか、なかなかそういうすごい広範囲にわたってしまして。保護者の方が、下伊那の方から諏訪まで送り迎えを高速を使ってやっているということで、それが週3回練習あるということで週3回、飯田の方から諏訪まで高速を使って子どもを送り迎えしているということ。なかなか経済的にも本当に大変ですねというお話をさせていただいたところで、ただ、経済的に大変というものある面で、今やはり技術がすごい進歩して、携帯電話で、テレビ電話をしながらオンラインでバスケットボールの指導を受けたりとかそういうこともできるので、いい面もありますとは言ってはいるんですがもう本当に時代が変わってきているなと思っています。うちの息子は今高校生ですが、中学のときに野球とサッカーと、吹奏楽があるぐらいで、息子は陸上をやりたいんですけど、陸上の部活がないからやることないという話でゲームの方に進んでしまった。今eスポーツが出てきたので、そっちで頑張りたいみたいなことを言ってるんですけど、それを本格的にやるって言ったところで、それを指導する人は誰だっとなったときに、指導できる人がいないとかということもあってメジャースポーツはまだ地域移行で教える方がいると思うんですけど、そういうちょっとマイノリティーのスポーツに関してのこともう少し考えていかなければいけないなと個人的に思っています。</p>
委員	<p>茅野市園長会から</p> <p>みなさんの話を聞く中で、保育園としてはと考えた時に、保護者の方から相談される内容の1つとして、子どもの生活リズムがなかなか整わない。夜遅くまで起きていて、朝起きられないため悪循環となる。登園がぎりぎりになり、保育園のスタートが慌てることになる。また、子ども達はスマホやYouTubeを見ることが好きで、やめられない状況になることもある等、様々な悩みを相談してきます。その中で保育園としては、安心安全に楽しく過ごすことを大事にしながら、</p>

	<p>一日保育士体験や参観日などを通して、生活リズムの大切さ、子ども達が好きな遊びやわらべうたを一緒に体験したり、絵本の大切さ等を伝えたりしながら進めています。保護者のみなさんと一緒に子どもの姿を共有し、成長を喜び合いながら、保育園生活が子ども達にとって楽しいものとなるようにしていきたいです。地区こども館のあり方検討についても、永明小中学校、こども館、ちの保育園は恵まれた環境の中にあるので、その環境を生かしていきたいと思っています。先日、分室に出向きお話し会を楽しんできました。今度は絵本を借りに行くことを楽しみにしている子どもたちです。保育園としても身近にある施設を大事にし、メイトさんと共有しながら計画をして、子ども達にとって楽しい時間が過ごせるように進めていきたいと思っております。</p>
委員	<p>市内高等学校から 前回私、最近学校から家庭に連絡しても返してくれない保護者が大分増えているという話をしたんですけども、昨今生徒と接していて感じるのは特性の問題で苦戦してるかなと思って接してきたんですけど、昨今どっちかという愛着、アタッチメントの問題かなと思いつつ、合理的配慮をしているところです。少し話が変わりますが、最近物価が上がっていて、子育てしにくいといいますが、生活が窮屈してる場合もあるんだろうなというふうに思っていて、愛着の問題ですとか生活が苦しい場合、なかなか接してる言葉がかわいくなかったりしています。先ほどヒアリングの話ありましたが、例えば地区こども館は、利用者が限定される中で、その一部の利用者の声を取り入れていくということも、どうかなという感じもしています。私が危惧してるのは、れぞれたくさん事業を抱えている中、また、県の方もいくつか事業をやっているというふうに思います。市役所の中でも、それぞれの部署でやってるかと思ってまして、民間でも、それぞれの役割を果たしていますし、茅野市は市民活動も比較的活発なんじゃないかなという、感触もっているんですけども。教育に関して言うと、茅野市さんは、教育の部署が他の市町村さんと比べて一人一人見てくださっています。ヒアリング、どの方の意見を聞いていくかということについて、私自身は行政を行う人たちの隣の部署との意見交換が、大事だと思いますか、プロの方の意見交換も大事かなというふうに思っています。このような審議会で外部の意見もそうなんですけど、内部の会合を開いて、ふやしていくということの方が、財源の問題もありますし、働き方改革がありますし、もうその事業をふやしていくことはなかなか難しいんじゃないかなという感じがしています。ついては、このどんぐりプランという迷ったときの方向を示してるなと思いますので、行政としての役割といいますか。目標といいますか、指針になるプランで持続可能な指針になって欲しいなと思っています。</p>
委員	<p>諏訪児童相談所から 児童相談所の方では非常に大変、茅野市の皆さんにお世話になっております。本当にいろんなケースの共有を茅野市さんとさせていただく中で、いろんなサービスがあったり、本当にすごいなと思っているんですけど、やはりこういった議論を重ねてきて、仕組みができてるところが大きいのかなと思ったりしております。ただその少子化で子どものニーズはもっと減っているんですけども、何故か児童相談所のケースは減らないですもちろんこども課さんのケースも減らないというところで、やはり支援が必要な親御さん家庭は本当に増えてるというか高止まりの状態というのがあります。本当に今あの時、時代が変わってきてという話もありましたけれども、もうひとり親さんだったりとかで</p>

<p>後期高齢・福祉医療係 長</p> <p>こども係長</p> <p>副会長</p>	<p>すね、親族の支援が得られないとか、そういった親御さんが本当に残って、働きながら子育てをしているというような、状況があってやっぱり特別な人が支援を受けるんじゃないかと、通常モードだというような時代になってるのかなというのはちょっと感じているところです。その中でも、虐待の話もありましたけれども、重篤な虐待になって児童相談所に来るとするのは、言ってみれば一部なんですけれども、ひどい虐待まではいかない地域で生活しているというか、本当に時代かなと思っていますので、支援が事業で減らしていきなきゃいけないというのはあるんですけど、支援の上には、できるだけ多く多様な方がいいのかなというのは児童相談所の立場からすると思います。運営の問題があると思うのでそうもいかないと思うんですけども、本当に重篤になる前に何とか地域の中で、家庭を離れずに、お子さんたちがこの地域でお持ちになって、それをサポートしていくという地域づくりはとても大事なんだろうなと思っています。ますますこの提案の方には期待したいと思っています。</p> <p>4 その他</p> <p>(1)福祉医療費給付等事業費の制度改正について 【追加配布資料】により制度改正について説明</p> <p>(2)その他</p> <p>子ども家庭応援会議の委員の任期のことですけれどもこちら2年となっております。委員の皆様には様々なお立場からご意見いただき、本当にありがとうございました。来年度の委員さんですが各団体から選出されている委員さんにつきましては、来年度もそれぞれ団体様に当て委員選出の依頼をお願いしたいと考えております。先ほどのどんぐりプランの話の中でもありましたけれども、様々な方に関わっていただくことで自分ごととなっていくということもありますので、ぜひ会長さんとかだけではなく、いろんな若い方だったり、女性の方だったりいろんな方に参加していただきたいと思っていますので、依頼が届きましたら選出をよろしく申し上げます。</p> <p>5 閉会</p>
---	--